

科目名	実践防災学（防災士養成講座） Seminars for Disaster Prevention Experts						
科目担当者	田中 保通 TANAKA Yasumichi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義・実習	開講学期	集中
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 進路支援科目] 他学部他学科履修 ○					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>自然災害が頻発する中、まずは自分の身を守るため、さらには地域での共助のために、防災・減災に関する知識と技能を身に付けることが重要です。また、そのスキルは、様々な業界において必要とされており、卒業後の就職先においても役に立ちます。</p> <p>このため、防災士の資格が取得できる防災士養成講座を9月中旬に集中講義方式で実施します。専門機関の講師が地震、風水害、災害ボランティア等に関する講義を行うほか、避難所開設運営訓練や救急救命講習（いずれも10月頃に実施）を盛り込んだ実践的な内容で実施します。（講義の順番は変更することがあります。）</p>						
授業の到達目標	<p>① 防災・減災に関する知識と技能を身に付ける。</p> <p>② 防災士の資格を取得する。（当科目を受講した上で、日本防災士機構による試験に合格し、所定の手続きを行った場合に、防災士の資格が取得できます。）</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクション／地震・津波による災害／耐震診断と補強					
	2	土砂災害／ライフライン・交通インフラの確保					
	3	気象災害・風水害／近年の主な自然災害					
	4	災害関連情報と予報・警報／災害情報の活用と発信					
	5	火山災害／広域・大規模災害／被害想定・ハザードマップ					
	6	行政の災害対策と危機管理／行政の災害救助・応急対策					
	7	災害ボランティア活動／復旧・復興と被災者支援／災害医療とこころのケア					
	8	自主防災活動と地区防災計画／災害と損害保険／企業・団体の事業継続					
	9	地震・津波への備え					
	10	風水害・土砂災害への備え					
	11	防災士に期待される活動					
	12	避難所の設置と運営協力（避難所開設運営訓練）					
	13	救地域防災と多様性への配慮（避難所開設運営訓練）					
	14	防災士が行う各種訓練（避難所開設運営訓練）					
	15	救急救命講習					
		防災士資格取得試験					
授業外学修 (事前学修)	毎回、防災士教本の該当箇所を予習しておく（毎回2時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	毎回、授業内容について整理し、不明な箇所は確認し理解しておく（毎回2時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	授業参加姿勢（講義及び実習） レポート				70% 30%	①、② ①、②	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	『防災士教本（2026年度版）』 認定特定非営利活動法人 日本防災士機構						
参考文献	なし						
その他	2年次以上も受講が可能です。 防災士の資格取得には受験料及び登録料が必要です（補助制度がある市町村があります）。						